

天津人大学生の言語評価

宮 本 大 輔

1. はじめに

本稿は、中国人の言語意識、言語評価に関する研究の一部である。社会言語学的な立場から、天津人が中国に存在する多くの方言をどう評価し、また、普通話（共通語）と方言をどのように使い分けているのかということを論じている。本章では、まず本研究のキーワードである「言語意識」及び「言語評価」の社会言語学における位置づけについて明確にしておきたい。

言語意識（Language Consciousness）及び言語評価（Language Evaluation）は言語態度に属する内容であり、社会言語学における重要な研究テーマの1つである。言語意識とは、言語に関連して生み出されるあらゆる感情や信念のことをさし、言語評価は言語意識における価値的評価に関わる感情・感覚をさす。真田等（2000: pp. 107-110）によれば、言語意識には以下の幾つかの内容が含まれる。

- (1) 言語・言語行動についての評価
- (2) 言語・言語行動についての信念・期待
- (3) 言語・言語行動についての規範
- (4) 言語使用・言語行動についての現状認識

(5) 言語使用・言語行動についての志向意識

本研究で扱う言語評価は上記の(1)「言語・言語行動に対する評価、感覚」に含まれる内容であり、主に日常生活におけるある言語形式、言語体系及び言語行動に対して持つある種の評価的性質を持つ態度のことである。当初は、Osgood, May & Miron (1975) が、世界各国において大規模な調査を実施した「girl」「policeman」といった概念についての評価が主であった。その後、井上(1978)に代表される日本の方言に対する評価研究が実施されるようになったのである。

言語イメージは、その言語が持つ音やリズムといった内的条件にのみ左右される訳ではなく、その他の外的条件も無視することはできない。外的条件の要素の一つに、その言語の母集団が持つ経済的背景が挙げられる。一般的に言語評価はこの要素によって大きく左右されると思われるがちである。だが、実際にはそれ程単純なものではない。その言語が母方言として使用される地域が持つ経済的地位は言語評価を決定する要素の1つに過ぎず、その言語がもつ文化的或いは歴史的な背景、更には方言の母語話者のアイデンティティーといった様々な要素が幾重にも複雑に影響を及ぼし合っていると考えられる。

本稿の目的は(1)天津人大学生の普通話及び地方方言に対する評価及びイメージはどのようなものか(2)言語イメージの構築に影響を及ぼす要素は何か(3)各評価語間に潜在する共通因子は何かを探ることにある。

2. 先行研究

日本における言語評価研究には大量の調査データに基づいた全国規模のものと、一部の地域或いは一部の方言を対象としたものの2つのタイ

プが見られる。

前者の代表的な例としてあげられるのは、井上（1978a・b）である。本論では言語心理学の意味微分法（SD 法）に基づいて、各方言と結びつく評価語を調べ、「方言イメージ」によって各方言を位置づけることを試みている。この研究では、言語の評価によく用いられる 17 ペア 34 語を評価語として設定し、意味微分法に基づき評価を 7 段階にすることによって、インフォーマントの各方言（東京弁・東北弁・関西弁）に対する評価を細かく分析している。これと同じ方向性のものとしては、佐藤・米田（1999）を挙げることができる。

次に、後者の代表的な例としては、沖（1986）をあげることができる。本論では大阪における女子短大生の自己方言（大阪弁）、他者方言（京都弁、九州弁、東北弁、東京弁）及び標準語に対するイメージを記述し、方言イメージ形成の要因と過程について考察している。その結果、大阪弁イメージと京都弁イメージの相違、九州弁イメージと東北弁イメージの類似、大阪弁イメージの独立、東京弁イメージと標準語イメージの類似と全体からの独立という特徴が得られた。これと同じ方向性のものとしては、神鳥・高永（1988・1990）、相澤（1990）、鈴木（1991）、宮本（2007・2008a/b/c）を挙げることができる。

次に中国における言語評価研究には次のタイプが見られる。

陳を代表とするシンガポール華人の言語評価を対象とするものである。陳（1999）は、言語態度を感情的なものと理智的なものの 2 つに分類し、更に個人的なものと社会的なものの 2 つに分類した。また、シンガポールにおいてシンガポール華人を対象に、「好聴（美しい）、親切（親近感を覚える）、友善（友好的である）、有権威（威信がある）、文雅（上品である）、有身分（地位が高い）、精確（正確である）、用処多（使用可能場面が多い）、方便（便利である）、容易（簡単である）」という 10 の

評価項目を設定した言語評価調査をシンガポールにおいて実施し、二言語或いは三言語話者の英語、中国語（Standard Chinese）及び中国方言に対する言語評価について分析している。

本稿では日本で行われている国内方言に対する言語評価研究でとられている方法論を用いて中国の各方言に対する言語評価を明らかにすることを試みている。

3. 研究概要

本調査は以下の地点において、実施した。

調査地点と場所：中華人民共和国天津市

調査実施期間：2006年10月10日－24日（北京及び天津市）

調査対象：天津師範大学 男性：15名、女性：75名

年齢構成：17-30歳

上記のインフォーマントは全て天津市で生まれ育った者ばかりである。

調査対象は17歳から30歳の学部生及び大学院生であるため、本論の調査結果はこの年齢及び学歴を反映しているものと考えられる。

調査には、選択式の調査票を配布・回収する留置法を用いた。具体的な調査票の内容は宮本（2008c）をご参照いただきたい。

(a) 高雅（上品である）、(b) 親切（親近感を覚える）、(c) 柔軟（柔軟である）、(d) 豪爽（豪快である）、(e) 細膩（細やかである）、(f) 実用（実用的である）、(g) 好聴（美しい）、(h) 酷（かっこいい）、(i) 喜歓（好きである）という9つの評価項目を設定し、それぞれの項目に①～⑤の選択肢を用意した。①を5点、②を4点、③を3点、④を2点、⑤を1点として集計している。したがって、実際の言語評価数値において、3点以上の数値を示した場合はプラス、3点未満の数値を示した場

合はマイナスのイメージとなる。ただし、言語評価は絶対評価ではなく、相対評価であるため、評価項目ごとの分析では、プラスの数値を示していない方言であっても、該当する評価項目の9位までを上位、10位以後を下位として扱うことがある。

また、全ての評価項目において3点未満の評価を下された方言に関しては、その方言が持つ評価構成の前半を上位イメージ、後半を下位イメージとした。

調査対象言語は、中国語の標準変種である普通話、十大方言から晋語及び平話を除いた北方方言、呉語、徽語、贛語、湘語、閩語、粵語一表中ではそれぞれ北京語、上海語、安徽語、江西語、湖南語、福建語、広東語の7つを共通項目として設定した。そして、北方の人々が南方の局地方言についてどのような評価をするのかを調べることを目的に杭州語、蘇州語の2つ、その他の北方の局地方言として山東語、西南官話と呼ばれ独自の地位を確立しつつある四川語の2つを加えた。

更に調査地点の、周辺地域の北方方言の局地方言である東北方言、延辺語（朝鮮族語）、丹東語、唐山語、大連語、天津語の6つを加えた。

なお、分析にはSPSS for windows 11.0Jを使用し、因子分析¹⁾を行った。本稿では、まず9項目について主因子法²⁾とバリマックス回転³⁾による因子分析を試みた。その後、普通話とそれぞれの方言イメージの違いを分析する際には、一元配置分散分析⁴⁾を行った。

4. 分析と結果

4.1 全体像

表1は(a)～(i)の各評価項目について、言語の別を問わず因子分析(主因子法・バリマックス回転)にかけた結果である。本稿では長江以

北を北方、長江以南を南方と定義する。この定義に従って本研究の対象言語を北方方言と南方方言に分類すると次のようになる。

北方方言：普通話、北京語、山東語、安徽語、四川語、東北語、延
辺語、丹東語、唐山語、天津語

南方方言：上海語、蘇州語、杭州語、江西語、湖南語、福建語、広
東語

因子分析に際しては、因子負荷量の絶対値 0.5 以上を示した項目の内容を参考に各因子を決定した。その結果、2 つの因子が抽出された。第 1 因子に高負荷を示した評価語は中国の北方方言のイメージにより強く現れるものであり、第 2 因子に高負荷を示した評価語は南方方言のイメージにより強く現れるものであった。そのため、第 1 因子を「北方方言のイメージ」、第 2 因子を「南方方言のイメージ」と命名した。

なお、「美しい」「親近感を覚える」については、第 1 因子、第 2 因子に多少の負荷を示している。これらの項目については、北方の方言、南

表 1 イメージ因子の因子パターン

	因子名	1 因子	2 因子	共通性
豪快である	北方方言のイメージ	.851		.857
かっこいい		.762		.844
好きである		.740	.608	.925
実用的である		.734		.865
親近感を覚える		.733		.875
美しい		.674	.667	.912
柔らかである	南方方言のイメージ		.868	.913
細やかである			.816	.907
上品である			.747	.890
寄与率		45.63	43.13	

(主因子法・バリマックス回転)

方の方言で共に現れる傾向にある。このことから下の因子解釈の妥当性が確かめられるだろう。

4.2 言語ごとの評価

本節では普通話、北京語、上海語、江西語、湖南語、福建語、広東語、東北語、延辺語、丹東語、唐山語、大連語、天津語、杭州語、蘇州語、山東語、安徽語、四川語のイメージについて詳述する。まず、これらの方言を分析した結果見えてきた全体的な傾向を示す。

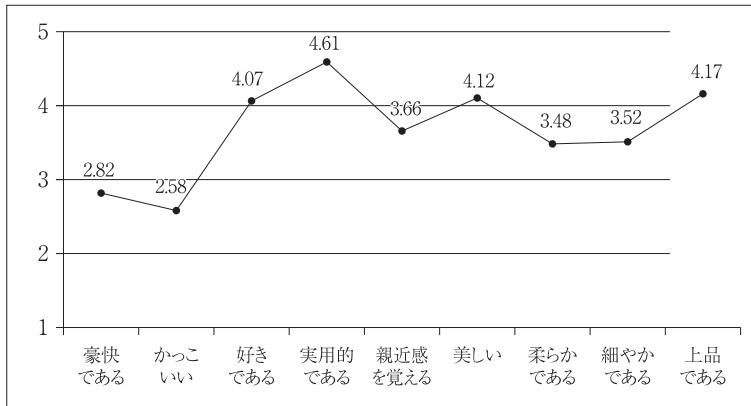
普通話と上海語、東北語、天津語のイメージは非常にはっきりとした形で現れている。普通話はその調査地点においても「豪快である」と「かっこいい」における評価を除けば、平均的に高いイメージを持たれている。これに対して、上海語については、かなり低い評価を下されている。

他の方言に対する評価数値は全体的に評価3付近に集中しており、本調査地点において、これらの方言ははっきりとしたイメージを持たれていないことが分かる。但し、蘇州語や杭州語のイメージは「豪快である」「かっこいい」「実用的である」といった項目が低く、「柔らかである」「細やかである」「上品である」といった項目が高いという2因子に近い特徴を持っていることが分かる。

4.2.1 普通話のイメージ

天津人大学生の心中に存在する普通話に対するステレオタイプの評価は、図1のようになる。普通話は北京語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「実用的である」「美しい」「親近感を覚える」「上品である」「好きである」「細やかである」においてプラスの評価数値を示す言語の1つである。また、普通話は北京語とは異なり、「柔らかである」においても比較的高い評価数値を示している。

図1 普通話のイメージ



また、『国家通用言語文字法』(2000) 第 19 条の規定に基づいて、各種メディアのアナウンサーや俳優、女優等が規範的な普通話話すことによって、人々の中で規範的な普通話は美しく、また普通話話すことは正しいことだという意識が養われ、その意識が言語評価に影響を与えたのではないかと推測される。

普通話が持つこういった規範性が評価され、上品であり、美しく、細やかな言語であるという位置づけがなされている。また、本論文のインフォーマントの出身地である天津は北方に位置する。そのため、同じく北方にあり、地理的距離も非常に近い北京語を代表的な下位方言に持つ北方方言を基礎とする普通話に対するイメージも向上し、「好きである」「親近感を覚える」といった心理的要素に強い影響を受ける評価項目において高い評価を得ている。更に、「細やかである」と意味的に近似する「柔らかである」における評価も高くなっている。

4.2.2 北京語のイメージ

天津人大学生の心中に存在する北京語に対するステレオタイプ的な評価は、図2のようになる。北京語は普通話と共に、本調査で設定した調

図2 普通話と北京語の比較

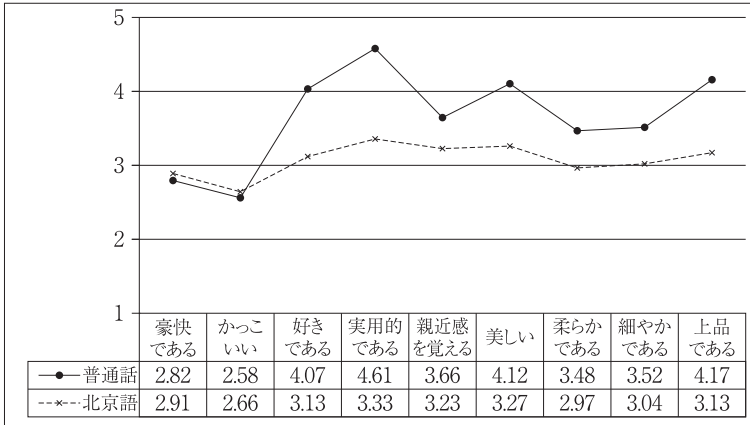


表2 普通話と北京語の比較（有意差）

	豪快である	かっこいい	好きである	実用的である	親近感を覚える	美しい	柔らかである	細やかである	上品である
有意差	.580	.604	.000 ***	.000 ***	.007 **	.000 ***	.000 ***	.001 **	.000 ***

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

査対象言語のうち、「実用的である」「美しい」「親近感を覚える」「上品である」「好きである」「細やかである」においてプラスの評価数値を示す言語の1つである。

また、図2から、天津人大学生の北京話に対するイメージは、「実用的で、美しく、親近感もあるが、豪快さやかっこよさは弱い」というものであり、普通話のイメージといくらか類似する点も見られる。だが、評価数値から言えば、北京語のイメージは普通話よりもかなり低くなっており、「豪快である」「かっこいい」を除く全ての項目において有意差が認められる。

表2を見れば分かるように、「豪快である」「かっこいい」においては、有意差が見られず、この2項目については普通話と北京語に共通するイ

メージであることが分かる。しかし、先ほども述べたように他の項目に関しては有意差が認められている。この差こそが天津人大学生の心中に存在する普通話と北京語の違いを表していると言える。

4.2.3 上海語のイメージ

図3 普通話と上海語の比較

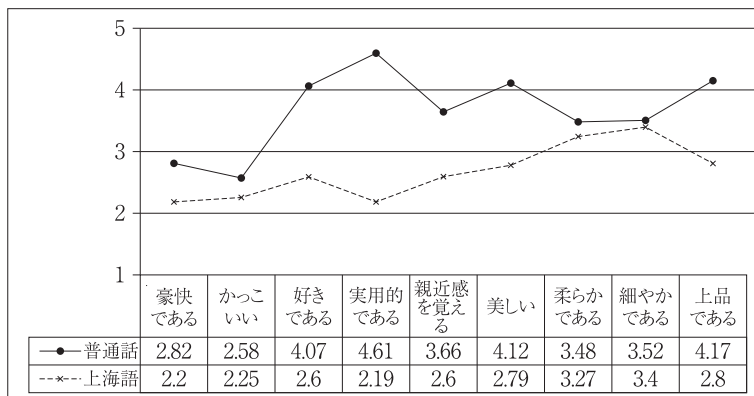


表3 普通話と上海語の比較（有意差）

	豪快 である	かわ い	好き である	実用的 である	親近感 を覚 える	美しい	柔らか である	細やか である	上品 である
有意差	.000 ***	.025 **	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.204	.416	.000 ***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

天津人大学生の心中に存在する上海語に対するステレオタイプ的な評価は図3のようになる。

中国で最も高い経済力を誇る上海市の方言である上海語は、「上品である」において11位、「美しい」において17位、「親近感を覚える」「豪快である」「実用的である」「かわいい」「好きである」において18位となっており、全体的に低い評価順位を示している。

また、表3を見れば分かるように、「柔らかである」「細やかである」

においては、有意差が見られず、この2項目については普通話と上海語に共通するイメージであることが分かる。

図3から読み取れる天津人大学生の上海語に対するイメージは、「細やかでやや柔らかく感じるが、かっこよさや豪快さ、そして実用性を持たない」というものであり、後述する蘇州語及び杭州語に対する評価と幾つか類似点が見られる。故に、この3つの方言に見られる評価数値を天津人大学生が呉語に対して持つ評価のステレオタイプと見なすことができるのではないだろうか。

4.2.4 江西語のイメージ

図4 普通話と江西語の比較

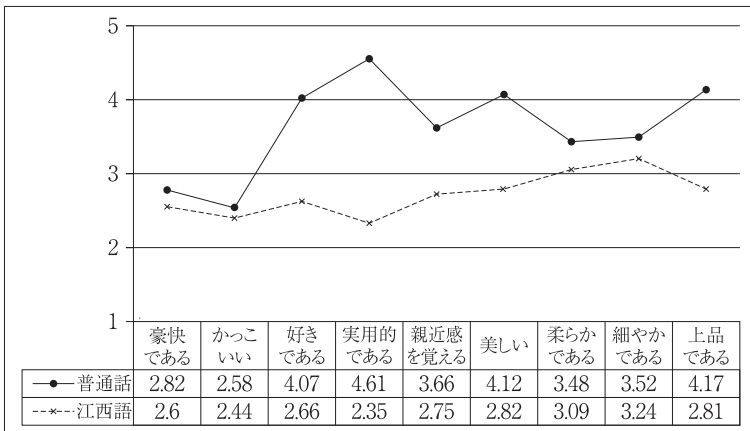


表4 普通話と江西語の比較（有意差）

	豪快 である	かっこ いい	好き である	実用的 である	親近感を 覚える	美しい	柔らか である	細やか である	上品 である
有意差	.168	.362	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.010 ***	.053	.000 ***

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

天津人大学生の心中に存在する江西語に対するステレオタイプの評価は、図4のようになる。江西語は上海語、湖南語、福建語、広東語、

延辺語、蘇州語、杭州語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「細やかである」「柔らかである」において、プラスの評価数値を示す言語の1つである。また、上海語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、この2項目においてのみプラスの評価数値を示す言語でもある。

図4から読み取れる天津人大学生の江西語に対するイメージは、「細やかでやや柔らかく感じるが、かっこよさや豪快さ、そして実用性を持たない」というものであり、呉語に属する方言が持つイメージと重なる部分がある。

また、表4を見れば分かるように、「豪快である」「かっこいい」「細やかである」においては、有意差が見られず、この3項目については普通話と江西語に共通するイメージであることが分かる。

伝統的な呉語を残すとされる蘇州語と比較すると、そのイメージは「細やかである」「柔らかである」という2項目においてプラスの数値を示し、「親近感を覚える」「実用的である」「かっこいい」「豪快である」という4項目においてマイナスの数値を示しているという点では共通している。だが「美しい」「上品である」「好きである」の3項目における評価では両者間の評価が異なっている。蘇州語ではプラスになっているが、江西語ではマイナスになっている。

4.2.5 湖南語のイメージ

天津人大学生の心中に存在する湖南語に対するステレオタイプ的な評価は、図5のようになる。湖南語は上海語、江西語、福建語、広東語、延辺語、蘇州語、杭州語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「細やかである」「柔らかである」において、プラスの評価数値を示す言語の1つである。

図5から読み取れる天津人大学生の湖南語に対するイメージは、「細やかでやや柔らかく感じ親近感が持てるが、上品さやかっこよさ、そし

図5 普通話と湖南語の比較

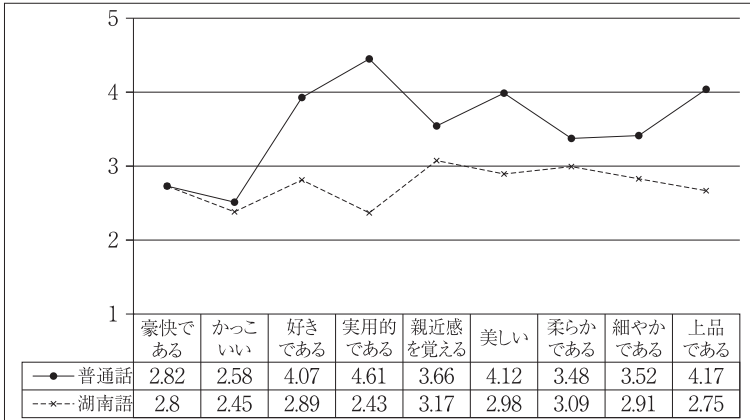


表5 普通話と湖南語の比較（有意差）

	豪快である	カッコいい	好きである	実用的である	親近感を覚える	美しい	柔らかである	細やかである	上品である
有意差	.890	.406	.000***	.000***	.001***	.000***	.006***	.000***	.000***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

て実用性を持たない」というものであり、細やかで柔らかな言語として認識されているという点では、呉語に属する方言が持つイメージと重なる部分がある。

また、表5を見れば分かるように、「豪快である」「カッコいい」においては、有意差が見られず、この2項目については普通話と湖南語に共通するイメージであることが分かる。

伝統的な呉語を残すとされる蘇州語と比較すると、そのイメージは「細やかである」「柔らかである」という2項目においてプラスの数値を示し、「実用的である」「カッコいい」「豪快である」という3項目においてマイナスの数値を示しているという点では共通している。だが「美しい」「上品である」「好きである」の3項目について、蘇州語でプラス

になっているが、湖南語ではマイナスになっている。また、「親近感を覚える」という項目については、蘇州語でマイナスとなっているが、湖南語ではプラスとなっている。これら4項目については両者間で評価が異なっている。

4.2.6 福建語のイメージ

図6 普通話と福建語の比較

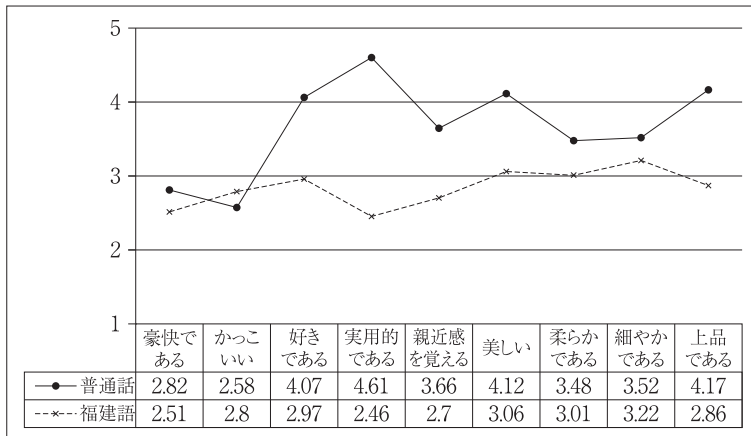


表6 普通話と福建語の比較 (有意差)

	豪快である	カッコいい	好きである	実用的である	親近感を覚える	美しい	柔らかである	細やかである	上品である
有意差	.052	.155	.000***	.000***	.000***	.000***	.003***	.031*	.000***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

天津人大学生の心中に存在する福建語に対するステレオタイプの評価は、図6のようになる。福建語は上海語、江西語、湖南語、広東語、延辺語、蘇州語、杭州語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「細やかである」、「柔らかである」において、プラスの評価数値を示す言語の1つである。

図6から読み取れる天津人大学生の福建語に対するイメージは、「細

やかで美しく、やや柔らかく感じるが、豪快さや実用性がなく親近感を覚えない」というものであり、細やかで柔らかな言語として認識されているという点では、呉語に属する方言に対するものと類似する点が見られる。

また、表6を見れば分かるように、「豪快である」「かっこいい」においては、有意差が見られず、この2項目については普通話と福建語に共通するイメージであることが分かる。

伝統的な呉語を残すとされる蘇州語と比較すると、そのイメージは「柔らかである」「美しい」「細やかである」の3項目においてプラスの数値を示し、「豪快である」「かっこいい」「実用的である」「親近感を覚える」の4項目においてマイナスの数値を示しているという点では共通している。だが、「好きである」「上品である」の2項目における評価では両者間で異なっている。蘇州語ではプラスになっているが、福建語ではマイナスになっているのだ。

4.2.7 広東語のイメージ

天津人大学生の心中に存在する広東語に対するステレオタイプの評価は図7のようになる。

図7から読み取れる天津人大学生の広東語に対するイメージは、「ややかっこよさや美しさを感じさせ好ましいが、豪快さや実用性は持たない」というものであり、かっこよく美しい言語であるという認識をされている点では非常に特徴的である。

また、表7を見れば分かるように、「豪快である」においては、有意差が見られず、この項目については普通話と広東語に共通するイメージであることが分かる。そして、他の項目では、常に普通話よりも低い評価を下されているが、「かっこいい」という項目では、普通話よりも高い評価を受けていることも特徴的である。

図7 普通話と広東語の比較

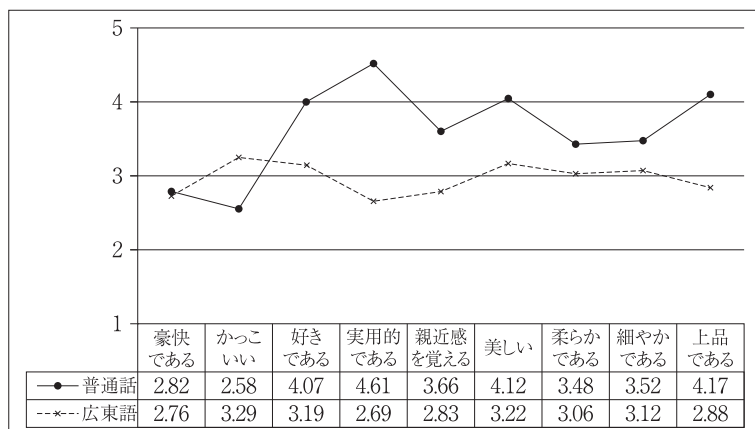


表7 普通話と広東語の比較 (有意差)

	豪快 である	かっこ いい	好き である	実用的 である	親近感を 覚える	美しい	柔らか である	細やか である	上品 である
有意差	.674	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.005 ***	.004 ***	.000 ***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

4.2.8 東北語のイメージ

天津人大学生の心中に存在する東北語に対するステレオタイプ的な評価は、図8のようになる。東北語は天津語、山東語、大連語、唐山語、丹東語、四川語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「豪快である」においてプラスの評価数値を示す言語の1つで、天津語、山東語の評価数値を上回り、最も豪快な言語であると評価されている。天津との地理的距離が比較的近いため、「親近感を覚える」、「好きである」においても比較的高い評価を得ている。

また、広東語、天津語、丹東語と並び、本調査で設定した調査対象言語のうち、「かっこいい」においてプラスの評価数値を示す言語の1つで、広東語、天津語に対する評価を超え、最もかっこいい言語であると

図 8 普通話と東北語の比較

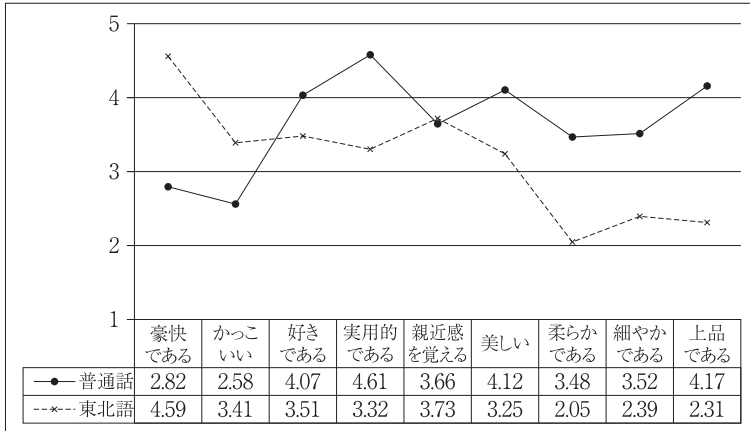


表 8 普通話と東北語の比較（有意差）

	豪快 である	カッコ いい	好き である	実用的 である	親近感を 覚える	美しい	柔らか である	細やか である	上品 である
有意差	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.642	.000 ***	.010 ***	.053	.000 ***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

評価されている。

図 8 から読み取れる天津人大学生の東北語に対するイメージは、「非常に豪快で、親近感を覚え、好ましいが、上品さや細やかさ、そして柔らかさは感じられない」というものであり、後述する山東語と多く類似する点が見られる。

また、表 8 を見れば分かるように、「親近感を覚える」においては、有意差が見られず、この項目については普通話と東北語に共通するイメージであることが分かる。

4.2.9 延辺語のイメージ

天津人大学生の心中に存在する延辺語に対するステレオタイプの評価は、図 9 のようになる。延辺語は上海語、湖南語、福建語、広東語、

図 9 普通話と延辺語の比較

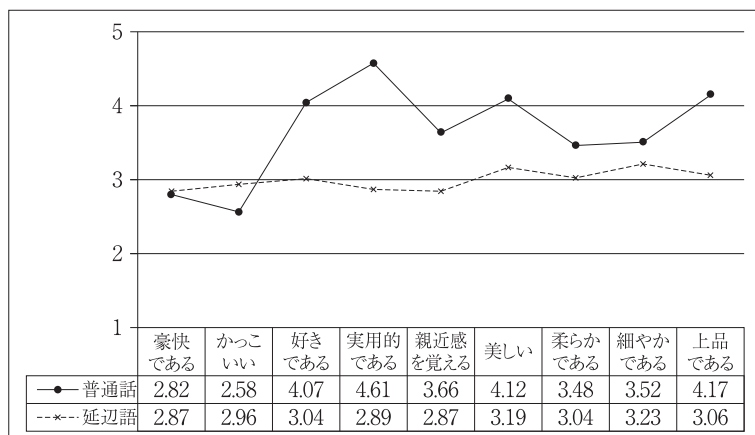


表 9 普通話と延辺語の比較（有意差）

	豪快である	カッコいい	好きである	実用的である	親近感を覚える	美しい	柔らかである	細やかである	上品である
有意差	.789	.021 *	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.007 **	.044 *	.000 ***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

延辺語、蘇州語、杭州語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「細やかである」「柔らかである」において、プラスの評価数値を示す言語の1つである。

延辺語は北方の言語ではあるが、少数民族語であるため、他の北方方言とは位置づけが異なり、「豪快である」というイメージは薄いようである。蘇州語、杭州語と並んで、「細やかである」「柔らかである」「美しい」「上品である」「好きである」の5項目においてプラスの評価数値を示す言語の1つでもあり、北方方言とは正反対のイメージを持っていることが分かる。

図9から読み取れる天津人大学生の延辺語に対するイメージは、「やや細やかで美しく、上品だが、実用性や豪快さはなく親近感も覚えな

い」というものである。

また、表9を見れば分かるように、「豪快である」においては、有意差が見られず、この項目については普通話と延辺語に共通するイメージであることが分かる。

4.2.10 丹東語のイメージ

図10 普通話と丹東語の比較

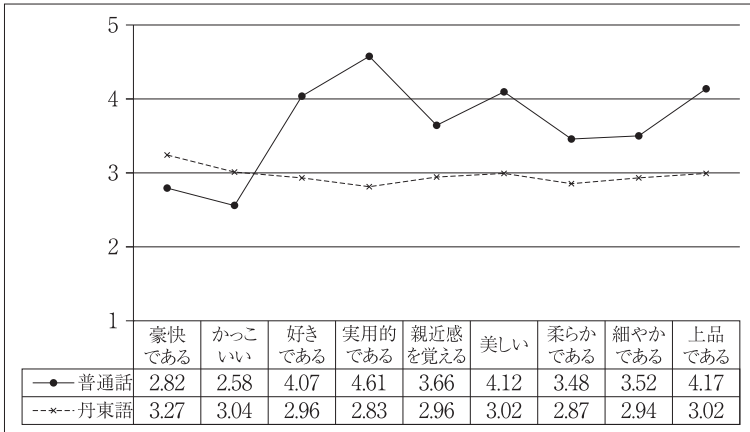


表10 普通話と丹東語の比較（有意差）

	豪快 である		かっこ いい		好き である		実用的 である		親近感を 覚える		美しい		柔らか である		細やか である		上品 である	
有意差	.009	**	.004	**	.000	***	.000	***	.000	***	.000	***	.000	***	.000	***	.000	***

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

天津人大学生の心中に存在する丹東語に対するステレオタイプの評価は、図10のようになる。丹東語は東北語、天津語、山東語、大連語、唐山語、四川語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「豪快である」においてプラスの評価数値を示す言語の1つである。

また、東北語、広東語、天津語と並び、本調査で設定した調査対象言語のうち、「かっこいい」においてプラスの評価数値を示す言語の1つ

で、東北語、広東語、天津語に次いでかっこいい言語であると評価されている。

図 10 から読み取れる天津人大学生の丹東語に対するイメージは、「やや豪快でかっこいいが、柔らかさや実用性は感じられない」というものであり、東北語に対する評価といささか通じるところがあるようにも見受けられる。

東北語と比較すると、そのイメージは「豪快である」「かっこいい」「美しい」の 3 項目においてプラスの数値を示し、「細やかである」「柔らかである」の 2 項目においてマイナスの数値を示しているという点では共通している。だが、「親近感を覚える」「実用的である」「好きである」という 3 項目について、東北語ではプラスになっているが、丹東語ではマイナスになっている。また、「上品である」という項目については、丹東語でプラスになっているが、東北語ではマイナスになっている。これら 4 項目については両者間で評価が異なっている。

4.2.11 唐山語のイメージ

天津人大学生の心中に存在する唐山語に対するステレオタイプ的な評価は、図 11 のようになる。唐山語は東北語、天津語、山東語、大連語、丹東語、四川語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「豪快である」においてプラスの評価数値を示す言語の 1 つで、東北語に次ぐ高さを示す。

図 11 から読み取れる天津人大学生の唐山語に対するイメージは、「やや豪快で親近感を覚え、好ましいが、柔らかさやかっこよさ、そして上品さは感じられない」というものであり、東北語に対する評価と些か通じるところがあるようにも見受けられる。

また、表 11 を見れば分かるように、「かっこいい」「親近感を覚える」においては、有意差が見られず、この 2 項目については普通話と唐山語

図 11 普通話と唐山語の比較

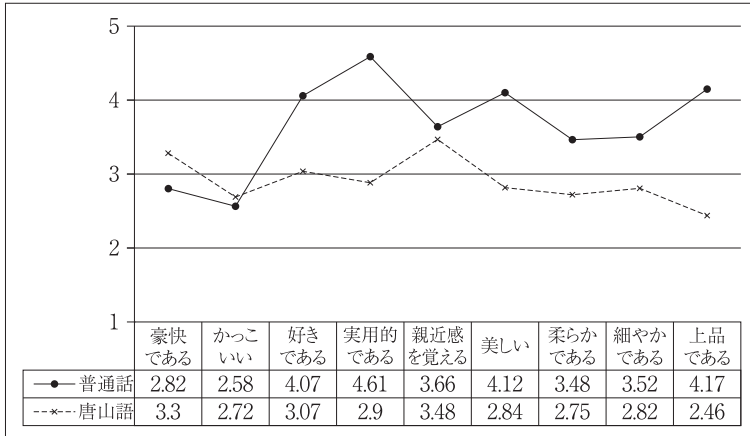


表 11 普通話と唐山語の比較 (有意差)

	豪快 である	かっこ いい	好き である	実用的 である	親近感 を覚える	美しい	柔らか である	細やか である	上品 である
有意差	.002 ***	.356	.000 ***	.000 ***	.239	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.000 ***

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

に共通するイメージであることが分かる。

東北語と比較すると、そのイメージは「豪快である」「親近感を覚える」「好きである」の3項目においてプラスの数値を示し、「細やかである」「上品である」「柔らかである」の3項目においてマイナスの数値を示しているという点では共通している。しかし、「かっこいい」「実用的である」「美しい」の3項目においては両者間の評価が異なっている。東北語ではプラスになっているが、唐山語ではマイナスになっているのだ。

4.2.12 大連語のイメージ

天津人大学生の心中に存在する大連語に対するステレオタイプの評価は、図 12 のようになる。大連語は東北語、天津語、山東語、唐山語、

図 12 普通話と大連語の比較

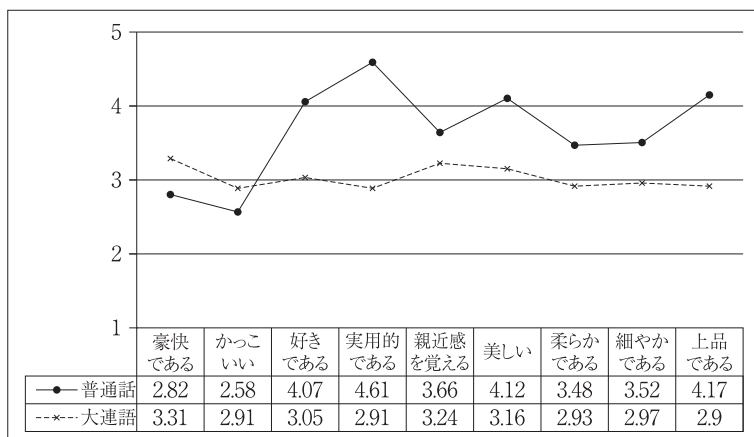


表 12 普通話と大連語の比較（有意差）

	豪快 である	かっこ いい	好き である	実用的 である	親近感 を覚える	美しい	柔らか である	細やか である	上品 である
有意差	.004 **	.032 *	.000 ***	.000 ***	.011 *	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.000 ***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

丹東語、四川語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「豪快である」においてプラスの評価数値を示す言語の1つで、東北語に次ぐ高さを示す。

図 12 から読み取れる天津人大学生の大連語に対するイメージは、「やや豪快で美しく、親近感を覚えるが、実用性、かっこよさ、上品さは弱い」というものであり、東北語に対する評価と些か通じるところがあるようにも見受けられる。

東北語と比較すると、そのイメージは「豪快である」「親近感を覚える」「美しい」「好きである」の3項目においてプラスの数値を示し、「細やかである」「上品である」「柔らかである」の3項目においてマイナスの数値を示しているという点では共通している。しかし、「かっこ

いい」「実用的である」の2項目においては両者間の評価が異なっている。東北語ではプラスになっているが、大連語ではマイナスになっているのだ。

4. 2. 13 天津語のイメージ

図 13 普通話と天津語の比較

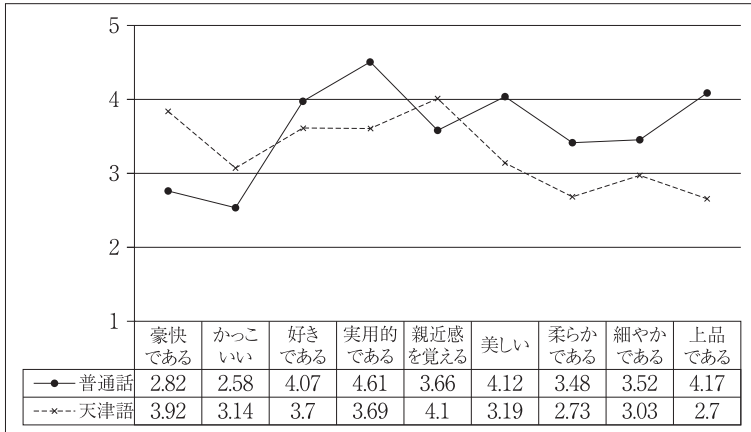


表 13 普通話と天津語の比較（有意差）

	豪快 である		かっこ いい		好き である		実用的 である		親近感を 覚える		美しい		柔らか である		細やか である		上品 である	
有意差	.000	***	.001	**	.024	*	.000	***	.005	**	.000	***	.000	***	.001	**	.000	***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

天津人大学生の心中に存在する天津語に対するステレオタイプのな評価は、図 13 のようになる。天津語は東北語、山東語、大連語、唐山語、丹東語、四川語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「豪快である」においてプラスの評価数値を示す言語の 1 つで、東北語に次ぐ高さを示す。

また、調査地である天津のインフォーマントの母語であるため、「親近感を覚える」、「好きである」といった心理的評価、「実用的である」

という知的評価においても比較の高い評価を得ている。

天津語がこれ程高い評価を得ているのは、天津語が天津人大学生の母方言であるためだろう。宮本（2008c）によれば、家庭内では 64.4% が母方言である天津語を使用すると回答している。

図 13 から読み取れる天津人大学生の天津語に対するイメージは、「豪快で親近感を覚え、好ましいが、細やかさや柔らかさ、そして上品さは弱い」というものであり、東北語に対する評価と些か通じるところがあるようにも見受けられる。

東北語と比較すると、そのイメージは「豪快である」「親近感を覚える」「美しい」「好きである」「実用的である」「カッコいい」の 6 項目においてプラスの数値を示し、「上品である」「柔らかである」の 2 項目においてマイナスの数値を示しているという点では共通している。「細やかである」という項目においては両者間の評価が異なっている。天津語ではプラスになっているが、東北語ではマイナスになっているのだ。

4.2.14 杭州語のイメージ

天津人大学生の心中に存在する杭州語に対するステレオタイプ的な評価は、図 14 のようになる。杭州語は蘇州語、延辺語と並んで、「細やかである」「柔らかである」「美しい」「上品である」「好きである」の 5 項目において、プラスの評価数値を示す言語の 1 つであり、「細やかである」「柔らかである」における評価数値は特に高い。

また、杭州語は上海語、江西語、湖南語、福建語、広東語、延辺語、蘇州語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「細やかである」「柔らかである」において、プラスの評価数値を示す言語の 1 つである。

図 14 から読み取れる天津人大学生の杭州語に対するイメージは、「細やかでやや柔らかで美しく感じるが、かっこよさや豪快さ、そして実用性を持たない」というものであり、先に示した上海語や後述する蘇州語

図 14 普通話と杭州語の比較

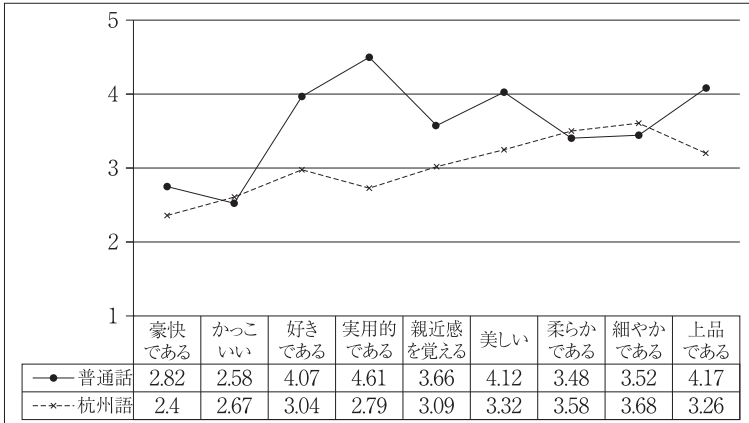


表 14 普通話と杭州語の比較 (有意差)

	豪快 である		カッコ いい		好き である		実用的 である		親近感を 覚える		美しい		柔らか である		細やか である		上品 である	
有意差	.011	*	.596		.000	***	.000	***	.001	**	.000	***	.509		.284		.000	***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

に対する評価と多くの類似点が見られる。

また、表 14 を見れば分かるように、「カッコいい」「柔らかである」「細やかである」においては、有意差が見られず、この 3 項目については普通話と杭州語に共通するイメージであることが分かる。

蘇州語と比較すると、そのイメージは「細やかである」「柔らかである」「美しい」「上品である」「好きである」においてプラスの数値を示し、「実用的である」「カッコいい」「豪快である」においてマイナスの数値を示しているという点は共通している。だが、「親近感を覚える」という項目においては両者間の評価が異なっている。天津との直線距離で言えば、蘇州の方が近いが、天津が杭州と同じ方言島であることが、蘇州語と杭州語のイメージの間に、このわずかな差を生じさせたのかも

しれない。

4.2.15 蘇州語のイメージ

図 15 普通話と蘇州語の比較

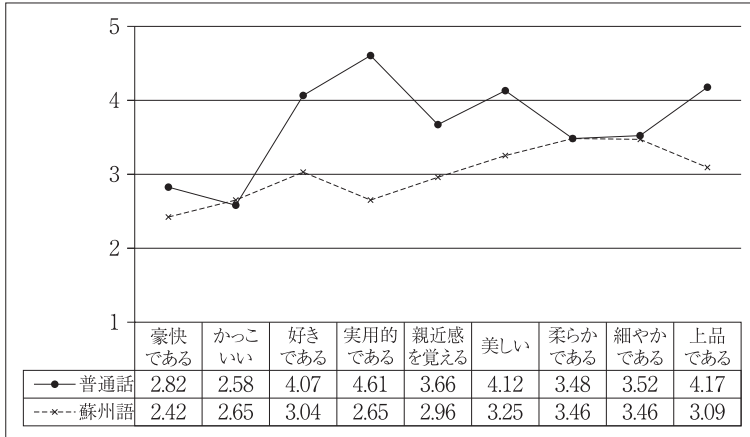


表 15 普通話と蘇州語の比較（有意差）

	豪快 である		カッコ いい		好き である		実用的 である		親近感を 覚える		美しい		柔らか である		細やか である		上品 である	
有意差	.020	*	.686		.000	***	.000	***	.000	***	.000	***	.890		.667		.000	***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

天津人大学生の心中に存在する蘇州語に対するステレオタイプ的な評価は、図 15 のようになる。蘇州語は杭州語、延辺語と並んで、「細やかである」「柔らかである」「美しい」「上品である」「好きである」の 5 項目において、プラスの評価数値を示す言語の 1 つであり、「柔らかである」「細やかである」における評価数値は特に高い。

また、蘇州語は上海語、江西語、湖南語、福建語、広東語、延辺語、杭州語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「細やかである」「柔らかである」において、プラスの評価数値を示す言語の 1 つでもある。

図 15 から読み取れる天津人大学生の蘇州語に対するイメージは、「細やかでやや柔らかで美しく感じるが、かっこよさや豪快さ、そして実用性を持たない」というものであり、先に示した上海語や杭州語に対する評価と多くの類似点が見られる。

また、表 15 を見れば分かるように、「かっこいい」「柔らかである」「細やかである」においては、有意差が見られず、この 3 項目については普通話と蘇州語に共通するイメージであることが分かる。

4. 2. 16 山東語のイメージ

図 16 普通話と山東語の比較

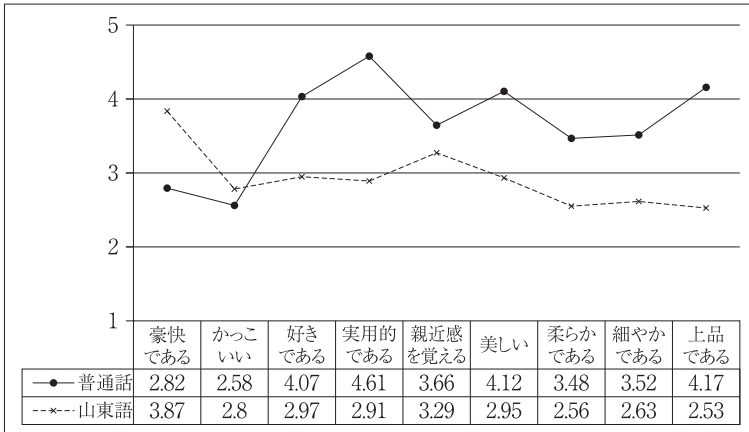


表 16 普通話と山東語の比較 (有意差)

	豪快である	かっこいい	好きである	実用的である	親近感を覚える	美しい	柔らかである	細やかである	上品である
有意差	.000***	.149	.000***	.000***	.022*	.000***	.000***	.000***	.000***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

天津人大学生の心中に存在する山東語に対するステレオタイプの評価は、図 16 のようになる。山東語は東北語、天津語、大連語、唐山語、丹東語、四川語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「豪快

である」においてプラスの評価数値を示す言語の1つで、東北語、天津語に次ぐ高さを示す。

また、天津との地理的距離が比較的近いため、「親近感を覚える」においても比較的高い評価を得ている。

図16から読み取れる天津人大学生の山東語に対するイメージは、「豪快で親近感を覚え、好ましいが、細やかさや柔らかさ、そして上品さは感じられない」というものである。この評価は、東北語に対する評価と些か通じるところがある。

また、表16を見れば分かるように、「かっこいい」においては、有意差が見られず、この項目については普通話と山東語に共通するイメージであることが分かる。

東北語と比較すると、そのイメージは「豪快である」「親近感を覚える」という2項目においてプラスの数値を示し、「細やかである」「上品である」「柔らかである」という3項目においてマイナスの数値を示しているという点では共通している。「かっこいい」「実用的である」「美しい」「好きである」という4項目においては両者間の評価が異なっている。東北語ではプラスになっているが、山東語ではマイナスになっているのだ。

4.2.17 安徽語のイメージ

天津人大学生の心中に存在する安徽語に対するステレオタイプ的な評価は、図17のようになる。

安徽語の母語集団である安徽省の調査対象として設定した方言の中でもかなり低い。安徽語に対する低い評価は、この経済力の低さに起因するものなのだろうか。

全評価項目においてマイナスの評価をされているが、図17から読み取れる天津人大学生の安徽語に対するイメージは、「わずかに柔らか

図 17 普通話と安徽語の比較

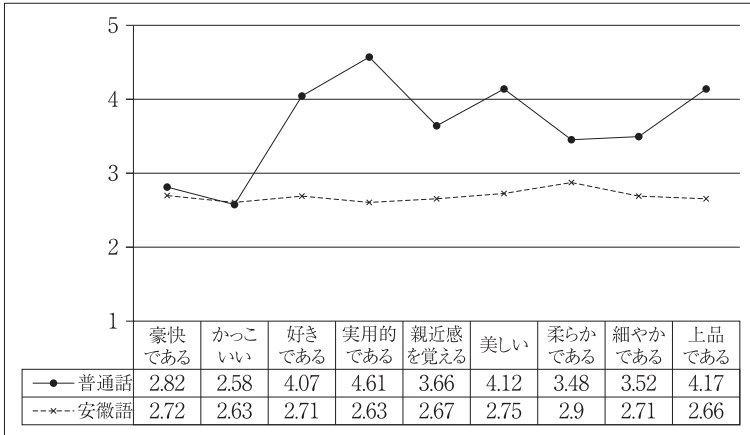


表 17 普通話と安徽語の比較（有意差）

	豪快である	かっこいい	好きである	実用的である	親近感を覚える	美しい	柔らかである	細やかである	上品である
有意差	.523	.755	.000***	.000***	.000***	.000***	.000***	.000***	.000***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

く、そして美しく感じるが、実用性やかっこよさは感じない」というものである。但し、全体的なイメージの波形に大きな変化が見られない（最大値と最小値の差は 0.27 pt である）ことから、天津人大学生の安徽語に対する認識は非常に薄いものである可能性も高い。

また、表 17 を見れば分かるように、「豪快である」「かっこいい」においては、有意差が見られず、この 2 項目については普通話と安徽語に共通するイメージであることが分かる。

4.2.18 四川語のイメージ

天津人大学生の心中に存在する四川語に対するステレオタイプの評価は、図 18 のようになる。四川語は東北語、天津語、山東語、大連語、唐山語、丹東語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「豪快

図 18 普通話と四川語の比較

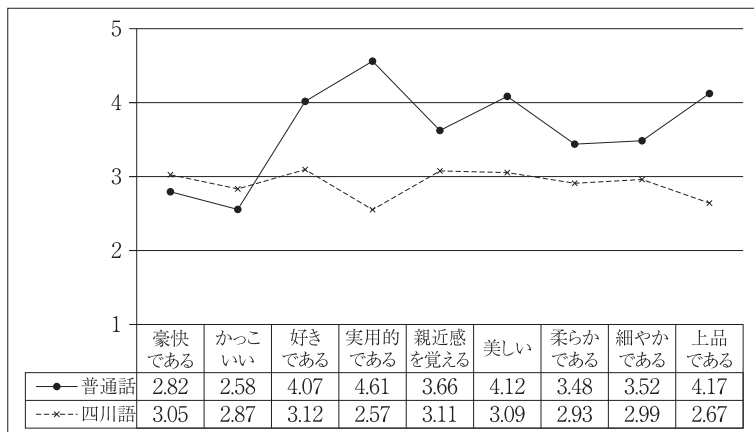


表 18 普通話と四川語の比較（有意差）

	豪快である	かっこいい	好きである	実用的である	親近感を覚える	美しい	柔らかである	細やかである	上品である
有意差	.165	.067	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.000 ***	.000 ***

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

である」においてプラスの評価数値を示す言語の1つである。

図 18 から読み取れる天津人大学生の四川語に対するイメージは、「やや親近感を覚え、美しく感じ、好ましいが、上品さや実用性は感じられない」というものである。

また、表 18 を見れば分かるように、「豪快である」「かっこいい」においては、有意差が見られず、この2項目については普通話と四川語に共通するイメージであることが分かる。

5. まとめ

(1) 天津人大学生の延辺語、丹東語、安徽語、四川語については、全体

的なイメージの波形に大きな変化が見られず、天津人大学生の認識が薄いものである可能性も高い。

- (2) 天津人大学生は、天津市からの地理的距離が近い地域を母語集団とする方言に対して、より強く親近感を覚える傾向にある。
- (3) 因子分析によって、各評価語間には「南方方言のイメージ」と「北方方言のイメージ」という2つの共通因子が存在することが明らかになった。

注

- 1) 多変量解析法の中で最も古い歴史を持つ手法で、観測された変数（例えば質問項目）がどのような潜在的な因子（要因）から影響を受けているかを探る手法である。
- 2) 因子分析における最も重要な解法の一つで、共通因子の全変動を順次の直交因子によって最大限説明しようとする方法である。
- 3) 因子の解釈を容易にするために行う直交回転の一つで、共通性で修正した因子負荷量の2乗の分散の和という「バリマックス基準」を最大にする回転を求める。
- 4) 複数の集団について、集団間に差異が有るのかどうかを調べる方法のこと。

引用文献・参考文献

- 相澤正夫（1990）．北海道における共通語使用意識－
- 富良野・札幌言語調査から－ 研究報告集, 11, 95-130.
- 蔡富有・郭龍生（2001）．語言文字学常用辞典 北京教育出版社
- 陳松岑（1999）．新加坡華人的語言態度及其對語言能力和語言使用的影響 語言教学与研究, 1, 81-95.
- 大東文化大学中国語大辞典編纂室編（1994）．中国語大辞典 角川書店
- 高一虹・蘇新春・周雷（1998）．回歸前香港, 北京, 広州大学生的語言態度 外語教学与研究, 2, 434-448.
- 堀井令以知（1988）「語感・言語意識・言語感覚」『日本語学』（7）, 8, 4-10.
- 井上史雄（1978a）．方言イメージの多変量解析（上）言語生活, 311, 82-91.
- 井上史雄（1978b）方言イメージの多変量解析（下）言語生活, 312, 82-88.

- 井上史雄 (1980a). 方言のイメージ 言語生活, 341, 48-56.
- 井上史雄 (1980b). 方言イメージの評価語 東京外国語大学論集, 30, 85-97.
- 井上史雄 (1983). 方言イメージ多変量解析による方言区画 平山輝男博士古稀記念会 (編) 現代方言学の課題 第一巻 明治書院 pp. 71-98.
- 井上史雄 (2007). 変わる方言, 動く日本語 筑摩書房
- 神鳥武彦・高永茂 (1988). 方言に対する好悪の意識—「広島方言に対する場合」— 国文学攷, 120, 1-18.
- 神鳥武彦・高永茂 (1990). 方言に対する好悪の意識—東広島市高屋町における自然発生的集落居住者の場合— 国文学攷, 125, 13-27.
- 金由那 (2006). 韓国語学習者の日本人と在日韓国人との意識の相違—韓国語・韓国・韓国人イメージと学習要因に着目して— 社会言語科学 8 (2), 26-42.
- 宮本大輔 (2007). 中国における言語評価—浙江省の大学生を例として— 神奈川大学 21COE プログラム年報『人類文化研究のための非文字資料の体系化』, 4, 193-202.
- 宮本大輔 (2008a). 北京における言語評価 神奈川大学 21 世紀 COE 『若手研究者研究成果論文集』 pp. 137-151.
- 宮本大輔 (2008b). 日本人学生の言語評価—神奈川大学で行った予備調査に基づいて— 神奈川大学大学院外国語学研究科『言語と文化論集』, 14, 51-74.
- 宮本大輔 (2008c). 中国人の言語意識と言語評価の研究—北京・天津・上海・杭州の大学生を例として— 博士論文, 神奈川大学外国語学研究科.
- 沖裕子 (1986). 方言イメージの形成 関西大学「国文学」, 63, 1-15.
- 大谷泰照 (1996). 日本人の言語文化意識 言語文化研究, 22, 1-25.
- Osgood, C. E. & May, W. H. & Miron, M. S. 1975 Cross-cultural universals of affective meaning. Univ. of Illinois Press, Urbana, USA
- 真田信治 (2006). 社会言語学の展望 くろしお出版
- 佐藤和之・米田正人 (1999). どうなる日本のことば—方言と共通語のゆくえ— 大修館書店
- 鈴木敏昭 (1991). イメージの中の方言と標準語—大阪府豊中市での調査から— 富山大学人文学部紀要, 17, 105-125.
- 楊東平 (2006). 城市季風—北京和上海的文化精神 (修訂本) 新星出版
- 顔之推撰 (6 世紀). 顔氏家訓 欽定四庫全書
- 易中天 (2006). 読城記 (修訂本) 上海文芸出版社
- 吉村雅仁 (2003). 国際理解教育における英語教育の役割—言語イメージ調査からの示唆— 国際

理解教育, 9, 42-61.

詹伯慧 (1983). 現代漢語方言 (樋口靖訳) 光生館